

授業科目名	教養講義(健康教育学)	選 択	開講年次	1	単位数	2
科目区分	基本科目					
サブタイトル	今どきの命の教育		担当者	藤澤 邦彦		
講義概要	<p>【概要】</p> <p>健康教育は、人類の生命の存亡に関わる教育として極めて大切な教育であることを理解させ、命あるものが平等に生涯に亘って無事に過ごせる社会の実現に向けて、確かで計画的な教育が必要であることを認識させる。さらに臨機応変な教育実践が自らの健康ばかりでなくすべての人々の幸せに貢献しうることを、具体的な教材や指導法を解説することによって学ばせる。</p> <p>【到達目標】健康教育の目的を理解、認識させ、それぞれの立場で命を大切にする教育活動ができる能力を育成する。</p>					
履修条件	教養講義「健康の科学」と併せて履修することが望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 使用しない。</p> <p>【参考書】 1.「健康教育概論」 日本健康心理学会編 実務教育出版 2.「健康教育への招待」 高橋浩之著 大修館書店</p>					
授業回数	内容					
1	オリエンテーション、ミニレポート「私の健康観」、健康教育とは（意義、位置づけ等）					
2	健康教育の目的・目標（健康観の変遷を中心として）					
3	今どきの健康観（1）（健康の特質の捉え方等）					
4	今どきの健康観（2）（成立条件等）					
5	新しい健康観（増進能、人らしさ等）					
6	健康教育の必要性（個人的、社会的等）					
7	健康の価値と教育（1）（健康第一の意味）					
8	健康の価値と教育（2）（計ってはならない価値、計れない価値）					
9	健康教育の今日的課題（人を大切にする選択とは）					
10	健康教育の原理（健康権の保障等）					
11	健康教育の学習理論（行動化理論を中心として）					
12	健康教育の方法（多様なメディアを参考に）					
13	健康教育者の資質、能力、資格（健康教育指導士等）					
14	健康教育の実施手順（立案、運営等）					
15	健康教育の実践例（地域における健康教育活動）					
評価方法	出席状況(全出席を基準とする)と、期末に行う論述式筆記試験の成績(満点を基準とする)を総合して評価する。					
評価基準	出席状況が良好であり、上記授業単元の内容について、よく理解し、適切に記述できた者は「A」、単元の内容についての理解や記述に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。出席状況が不良の者および単元の内容についての理解や記述が不十分な者は「D」、評価できない者は「E」とする。					
その他						